

展示スペース

■展示スペースの現状の問題点 1

展示方法について	キャプションをもう少し大きく表示
	キャプション→フォントによって見やすいものもある。例えばゴシック
	読んでもらわないと情報がわからない→でも静かにしないと
	ガラスのサインボードへの写り込みで見づらい
	ライトの方向で見えにくい。光の方向を考える
	内容を考えて楽しめるようなワークショップを！



<短期的な解決の方向性>

- 展示物の解説は文字のフォントや大きさ、行間、配色などにも注意しながら表示を見直す
- 照明などはユーザーの目線に合わせた角度・照度に調整をする
- 視覚障害だけでなく文字の認識が困難な来場者のために音声ガイドの準備や解説員を配置する
- 本来であれば館内では静かにすることがルールであるが、多くのユーザーが楽しめるように館内での会話楽しみながら鑑賞できる方法も検討する
- より楽しく鑑賞してもらうために、様々なユーザが活用できるようなパンフレットや音声ガイド等を準備しておく

■展示スペースの現状の問題点 2

展示スペース	美術館。座ってゆっくりと見たい
	カーペット床は車椅子（自力）は重い
	ガラスの仕切り
	展示室の段差
	パーテーション。倒すのが怖い
	椅子を！ゆっくりと腰をかけて見れるように、アトリエ（手作り椅子）。
	休憩スペースが欲しい

■展示スペースの現状の問題点 3

展示通路	通路に飛び出たガラス
	通路はフラットが良い。障害物がないこと
	誘導サインは障害物になることも



<短期的な解決の方向性>

- 子供や視覚障害の方などは距離感の認識や目の前の障害物を認識出来ない場合もある。不安定なパーテーションの設置はしっかりと固定する。ガラスなどは近づいて角に目や額が当たってしまうことのないように角を保護したり、スタッフもユーザーに配慮し安全を確保するよう努める
- 障害によっては一般に人よりも疲労を感じる事が早かったり、その日の天候等によって体調の変化も激しい場合もある。少し休憩が出来るスペースや椅子などの準備をする
- スロープ等を設置し段差は出来る限りなくす。段差がある場合は近くにスタッフを配置し注意喚起する
- 利用者の導線上に障害物がないか点検する。案内板なども障害物になる場合もある。必要に応じて壁沿いに設置する等設置場所を配慮すること